

# ゆうあい報 おたぴたる

新年号



特定医療法人  
**祐愛会織田病院** ODA REGIONAL MEDICAL CENTER

発行者 祐愛会織田病院企画室  
責任者 織田 正道 <院内報>

## クラウドを活用した医療情報 ネットワーク時代の幕開け

特定医療法人祐愛会理事長 織田 正道

二〇一三年がスタートしました。時代の大きな変化の中で、我々の情報取得の手段は、すでにICT抜きには語れなくなってきました。ことに近年、医療分野においては、病院の機能分化が進み、病院完結型から、連携による地域完結型へと大きく変わりました。更にこの連携は、在宅医療や介護分野も含めた地域の面連携へと進み、今や、病院病棟から地域病棟への発想の転換が急がれるようになってきています。このような流れの中で、医療や介護分野においてもICTを活用した情報ネットワークが求められるようになったのは当然の帰結と言えます。そして今、注目されているのがコンピュータの仮想化技術とネット

### 全国にさがかけて 電子カルテをクラウド化

前述の如く、これまで我々がめざしている総合ヘルスケアシステムの実現に向けての障壁の一つになっていたのが、保健、医療、介護における患者情報の一元化・共有化でした。昨年四月に在宅での情報交換ツールとしてクラウド型地域医療連携システム『EIR』を導入しましたが、一部の在宅患者のみの利用に限られており手回しきませんでした。そこで、十一月には、当院の電子カルテ導入を機に、本格的に医療情報システム全体、つまり電子カルテそのもののクラウド化を進めました(図1)。これが功を奏し、病院と在宅患者、さらには介護情報の一元化・共有化の問題が一挙に解決できる糸口が見えてきました。

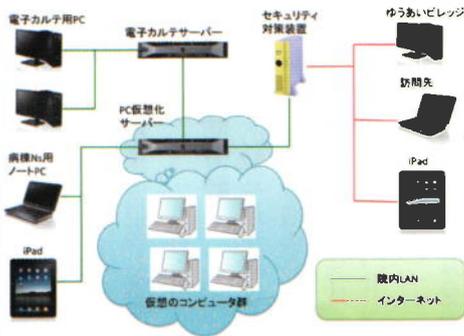
### クラウド化によるメリット

このクラウド化導入のメリットは大きく分けて、①様々なデバイスの活用が可能、②ワークスタイルの変革、③セキュリティ性が向上、④医療系・情報系業務の統合、⑤ランニングコスト削減、以上の五点です。特に①においては、様々なデバイスの活用が可能になったことにより、電子カルテ操作の端末が自由に選べるようになりました。これにより、手軽で便利なタブレットなどのモバイル端末の使用も可能となりました(写真1・2)。さらに②、③においては、ワークスタイルによって、例えば在宅医療の現場からの電子カルテ利用も、VPN (Virtual Private Network) を通すことにより、そのデータが認証や暗号化で厳重に保護・管理されるため、セキュリティ面での安全が確保されまし



た。また、端末は、キーボードを提供しているだけでデータも残らないことから、情報漏えいのリスクは最大限回避が可能となります。⑤は、デバイス維持費の削減、さらには保守費の削減によるものです。以上のように電子カルテのクラウド化は、医療現場にイノベーションをもたらしたと言っても過言ではないと思います。現在すでに院内だけではなく、訪問診療や訪問看護の現場からもiPadを利用し、直接電子カルテを操作・活用が始まりました(写真3)。今後は老人保健施設入所者も電子カルテと同様にクラウド化し、両方の情報の一元化・共有化を進めていきたいと思っております。なお、詳しくは、電子カルテ導入準備委員会の報告をご覧ください。

図1)クラウド化の仕組み



### 病院機能評価更新の年

早いもので、今年には四回目となる病院機能評価受審の年です。五年前の更新では、全国でも、最高の評価を得て、日本経済新聞をはじめ多くの新聞や雑誌にも、当院を取り上げていただきました。病院機能評価自体はランキングを競うものではありませんが、今後も医療の質の向上はじめ、当院の日々の取り組みが全国の病院の手本となるように、さらに努めていきたいと思えます。

それでは二〇一三年のグループ方針並びに各分野の目標を示します。

### 二〇一三年グループ方針

Aging in Place「住み慣れた地域で自分らしく最後まで」の実現を目指し、急性期の医療連携から地



写真3) 院外(在宅・施設)でも電子カルテの活用が可能

域包括ケアシステムまで、保健・予防・医療・介護の各分野がシームレスに提供できる総合ヘルスケアシステムの構築を目指します。

#### ◎保健・予防分野

- ・ 地域の人々の健やかな暮らしを支えるため、生活習慣病の予防・改善に継続的に取り組みます。
- 1. 人間ドック、専門ドック(脳・肺・乳腺ドック)、二次検診へ積極的に取り組み受診者の二割アップを図る
- 2. 行政と協力して特定健診・特定保健指導の受診率アップに努める
- 3. ヘルスアップ事業(ウォーキング教室)の参加者を増やし継続を図る
- 4. 糖尿病をはじめとする生活習慣病市民公開講座を、ゆうあい公開セミナーとタイアップし、恒例化(隔月)する

#### ◎医療分野

- ・ 急性期病院として医療連携を強化すると共に、地域での役割を明確化し、更なる医療の質の向上と、効率化を目指します。また、在宅医療や介護分野との一体的サービスも同時に進めます。
- 1. 地域に選ばれる病院づくり
- ①急性期機能の充実
- ・ 常勤医師の三〇人体制に向け、積極的に医師確保を行う
- ・ 救急患者受入れ体制の充実

#### (救急隊との連携強化)

- ・ 退院支援・調整を充実し、新規入院患者一〇%増を目指す
- ②病院は入院機能に特化
- ・ 逆紹介を推進し、紹介患者を増やす
- ・ 外来機能は専門外来化
- ・ サテライトクリニック開設…外来中心の診療科(皮膚科など)
- ③地域の面連携を推進
- ・ 連携センターを医療・介護連携の要とし、更なる充実を図る
- ・ クラウド環境を構築し医療と介護情報の一元化・共有化を図る
- ・ 在宅医療チーム結成し、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーションのバックアップ機能を強化する
- ④医療の質向上を目指して
- ・ TQM (Total Quality Management) 推進
- 2. スタッフに選ばれる職場づくり
- ①チーム医療を推進…医師・看護師・薬剤師・ロクセライク・コメディカルなど多職種役割分担を明確化
- ②業務の効率化を図り、時間外勤務の短縮を目指す
- ③ワークライフバランス(多様な勤務形態)の更なる推進
- ④人事考課の刷新を図る(考課者のマネジメント教育徹底)

#### ◎介護分野

- ・ 医療と介護の一体的サービス提供を進め、地域包括ケアシステムの全国モデルとなるように努める。
- 1. 地域包括ケアシステムの実現
- ①介護老人保健施設における在宅復帰・在宅療養支援機能の充実
- ・ 回転率一〇%以上を維持し、在宅復帰率五〇%以上をめざす
- ・ ショートステイの拡大、ルームシェアリングを推進する
- ・ 病院と連携し、リハビリ機能の充実を図る
- ②医療とのシームレスな連携推進
- ・ クラウド環境を構築し、医療と介護情報の一元化・共有化を図る
- ③新たな事業の展開と既存事業のバージョンアップ
- ・ 認知症デイサービスの稼働率七〇%をめざす
- ・ 認知症デイサービス「ほのぼの」十二時間サービス提供を進める

- ・ 小規模多機能型居宅介護の東部地区開設に向けて取り組む
- ・ 二十四時間型定期巡回・随時対応型サービス提供に向けて取り組む
- ・ サービス付き高齢者向け住宅のマーケティング
- ④人材採用・育成のための専属部門開設
- ・ 介護スタッフの能力向上に向けて、「認知症ケア」の教育研修の強化
- ・ コミュニケーション能力の向上・笑顔と挨拶の徹底
- ・ 外国人介護スタッフの教育・育成強化
- 2. スタッフに選ばれる職場づくり
- ①ワークライフバランス(多様な勤務形態)の更なる推進
- ②子育て支援・介護支援の充実
- ③業務の効率化を図り、時間外勤務の短縮を目指す
- ④人事制度の刷新を図る(考課者のマネジメント教育徹底)
- 3. セイフティーマネジメント
- 4. 「ゆうあい社会福祉事業団」の事業独立を推進





# 「電子カルテ」導入

## 電子カルテ導入準備委員会

宮崎 公志

平成二十四年十一月二十六日より電子カルテが稼働し、大きな混乱もなく約一か月半経過しました。平成二十五年五月に機能評価の更新を控え遅くとも年内には稼働させるということが決定したのは稼働まで六か月しかない五月中旬でした。導入システムはシーエスアイのMI・RA・IS/PC<sup>TM</sup>。

当院ではこれまでに検査・処方・画像・給食のオーダーリングシステム、内視鏡システム、PACS、そしてゆうあい総合入カシステム(自院システム)で入退院管理などが電子化されています。



そして今年度、電子カルテ導入がされました。電子カルテ導入のメリットはやはり業務の効率化と医療安全の向上にあります。電子入カし情報を一元管理することで各部署の連携がさらに向上するとともにカルテを探す手間がなくなり

テムに仕上げるかが課題です。そんななか結成されたのが電子カルテ導入準備委員会です。伊山副院長を筆頭に電子カルテ経験者である中原先生、安武先生、大高先生、及びS E、事務、看護部などで構成されました。



そして医事、看護支援、入院、外来など十一のワーキンググループを立ち上げシステムカスタマイズや運用手順・マスタ作成



働当日、全スタッフ総出の万全の体制ながらも不安と緊張でスタートしました。思った以上に患者様をお待たせすることなく、またシステムトラブル等もなく外来が終了し、その後も大きな混乱はありませんでした。短期間にも関わらず見事に電子カルテへ移行できました。今回導入にあたって毎日夜遅くまで運用やマスタなど作成してくださった各部署、各ワーキングの方々、そして職員の皆さんお疲れ様でした。



にとりかかりました。初めはどのワーキンググループでも運用を決めるのに電子カルテのイメージがつかず苦慮していましたが、実際の画面を見ながら話し合っていくうちにだんだんイメージが掴め、運用やマスタが仕上がっていききました。そして十一月八日(木)

に合わないこと誰もが感じたことでしよう。第二回目リハールは十一月十七日(土)。システムは本稼働に合わせてほぼ仕上がりが、そして一回目で挙げた問題点は、ほとんど解決していました。約十日間で各部署、各ワーキンググループで遅くまで残りそれぞれの問題を解決してくれました。十一月二十四日、二十五日の土日でシステム移行を行い、

ます。また、薬や検査の指示の入力情報の確認が行いやすくなることで、薬の投与量や転記ミスを予防することができます。また患者認証システムにより患者さまの確認ミスを未然に防止できるなど多くのメリットが考えられます。電子カルテの恩恵を受けるにもこの短期間でいかに病院にあったシス

には外来、九日(金)には病棟でそれぞれリハールを行いました。リハールでは「システムが出来上がっていない部分がある」、「患者の流れを職員が把握していない」、「操作に時間がかかりすぎる」、「印刷物が出てこない」など予想以上の問題が出てきました。このままでは導入に間

システム移行を行い、そして迎えた本稼働当日、全スタッフ総出の万全の体制ながらも不安と緊張でスタートしました。思った以上に患者様をお待たせすることなく、またシステムトラブル等もなく外来が終了し、その後も大きな混乱はありませんでした。短期間にも関わらず見事に電子カルテへ移行できました。今回導入にあたって毎日夜遅くまで運用やマスタなど作成してくださった各部署、各ワーキングの方々、そして職員の皆さんお疲れ様でした。



# 新任 Dr 紹介

## 耳鼻咽喉科 大橋 充

〔出身医局〕  
九州大学医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科  
〔専門領域〕  
耳鼻一般・耳科学



平成二十四年八月より勤務しております、耳鼻咽喉科の大橋充です。平成十

年に宮崎医科大学(現宮崎大学医学部)を卒業し、耳鼻咽喉科に入局いたしました。当時の宮崎医科大学耳鼻咽喉科教授の小宗静男先生が、九州大学耳鼻咽喉科に異動されるに当たって私も同行させていただくこととなり、福岡に転居してからはや七年目になろうとしています。耳鼻咽喉科全般を扱わせて頂いておりますが、特に難聴や中耳炎の手術を専門領域として臨床また研究をしております。微力ながら是非皆様のお力になれるよう精進する所存です。今後とも何とぞ宜しくお願い申し上げます。

## 徳島 緑

〔出身医局〕  
佐賀大学医学部総合診療部  
〔専門領域〕  
総合診療



昨年十月より赴任しました徳島緑と申します。佐賀大学医学部総合診療部より参りました。佐賀大学を卒業後、五年目になります。まだまだ学ばせて頂くことばかりで、諸先生方よりご指導を受けながら勤務させて頂いております。もともと地域医療に興味があり総合診療部に入局した経緯もあり、何らかの形で鹿島地域の医療に貢献できればと思っております。まだ不慣れな面が多くありますが、長い目で見てやっていただけると幸いです。宜しくお願いいたします。



# 平成二十四年度 祐愛会シンポジウム

地域包括ケアシステムの推進に向けて  
法人部門間の見える化と今後の展望

医療ソーシャルワーカー 原 和行

毎年恒例の忘年会の日に行われていた研究発表会(OC活動発表会)を三月九日に変更し、今年度は、病院とゆうあいビレッジのスタッフが一堂に会するこの機会を利用してシンポジウムを開催しました。テーマは、「地域包括ケアシステムの推進に向けて」法人部門間の見える化と今後の展望」でした。

二〇二五年の地域包括ケアシステムの完成に向け、現在法人各部署で行われている業務を発表して



いただき、問題点や法人の目指す方向性を共有するのが主な目的でした。

シンポジウムの中で、「Ageing in place」(住み慣れた地域で自分らしく最後まで)というすばらしい言葉が出ました。当地区で自分らしく最後まで生活していただくためには、法人の行っている医療・介護・福祉のシステムの活用が不可欠であり、このシステムを用いて地域の人々の生活をサポートしていくことの重要性を再確認しました。また、「Ageing in place」を実現するためには、地域へ外向き法人の取り組みを人々に理解していただくことの必要性も感じました。

このシンポジウムを通して、我々がどのような取り組みを行っているかについての理解と、今後どのような取り組みが必要なのかという共通認識を持てたと思います。大成功のシンポジウムであったと考えています。

シンポジウム終了後は忘年会で、一年の労をねぎらい、来年への英気を養いました。



# 織田病院へようこそ



SELAMAT DATANG KE RUMAH SAKIT ODA

看護部長 徳田 俊江

晩秋の鹿島へ横浜からデスティさん、キキさんが到着いたしました。横浜の研修地と似たのどかな環境の鹿島駅に降り立った2人は、期待と不安の交じり合った表情で大変緊張していました。織田病院の玄関で理事長、院長はじめ職員の皆様に歓迎され花束をいただいたとき、やっと笑顔になれました。

インドネシアで6カ月、横浜で6カ月、日本語を勉強していますので標準語は理解できますが、佐賀辯には苦労をするかと思えます。

11月15日から、4階病棟で看護助手として勤務しています。2月に、初めての国家試験を受けますので、それに向けて勉強を開始していますが、漢字は読めても意味が理解できません。インドネシア語で困ったことを「アラマア」と表現するそうです。災害や不運を「ムシバ」と言うそうです。「アラマア」は国家

試験の勉強中に時々使用していますが、「ムシバ」は避けたいそうです。

早く佐賀県・鹿島の習慣を覚えることができるよう、努力をしていますので温かく見守ってください。そして、ご指導よろしく願いいたします。



デスティロッサーレハッタさん



リズキーチャンティーさん

## ようこそ ゆうあいビレッジへ

インドネシアより介護の仲間を迎えました

ケアコートゆうあい副施設長 西村美枝子

昨年11月15日にインドネシアより介護福祉士候補者を迎えました。お2人の紹介をします。エルリスタ・マイロー



エルリスタ・マイローレン・タリガンさん



リンチェ・シレガルさん

レン・タリガンさんとリンチェ・シレガルさんのお2人です。お2人は、インドネシアで看護師の資格をとり、日本では、平成27年1月の介護福祉士国家試験を受ける予定です。介護の現場で経験を積み、一発合格を目指します。施設では、お2人を受け入れるため、皆で学習や現場指導を行っています。お2人の様子を現場の職員が紹介します。

プリセプターの田島悦子介護福祉士さんよりの紹介です。お2人を迎え、2ヶ月が経過しようとしています。初めて外国の方を受け入れるにあたり、緊張と不安が大きくどうなることやらと思っていました。いざ、お会いしてみるととても可愛らしく、素直でやさしい女性でした。日本語も上手に話せ、利用者にもどんどん積極的に話しかけられていました。職員も休憩の時には、色々質問したり、方言を教えたりしています。ある日、困った顔をしたローレンさんを見かけ声をかけると、「何て言っているのかわかりません」と利用者さんの話す言葉があまりに方言すぎたようでした。「ごちゃーの痛かけん、はよー寝かせてくれんね」を「腰が痛いので早く休ませて」言われていることを説明すると笑顔に変わりました。改めて日本語の難しさを日々実感させられています。少し恥ずかしがりやのリンチェさんも大きな声で利用者さんの名前を呼んだり、面白いことがあると声を出して笑えるようになりました。早くから利用者さんや職員にも慣れてもらい喜んでいきます。職員にとっても良い機会を与えて頂いたと思います。これからも、もっと日本語(方言も)が直ぐ理解し、介護にスムーズに入れるように支援していきたいと考えています。

## 屋上庭園



平成二十四年八月十六日に開園した屋上庭園を紹介したいと思います。この屋上庭園は新棟四階にあり、患者様の癒しとくつろぎ、退院後の生活に向けたリハビリを行うことを目的として作られました。

入院患者様は病気の不安や慣れない入院生活にストレスを感じていることだと思います。庭園では季節ご

とに花の植え替えを行い、五感で四季折々の花を楽しむことができます。ホットとできる空間となっています。そのため、患者様だけでなく、面会の方などにも気分転換や憩いの場として喜ばれています。病院内の環境は、バリアフリーとなつていますが、この庭園には階段や坂道などもあり、地面はレンガや芝生をあえて使用し、不整地にしています。そのため、退院に向けた、より実用的な歩行練習を行いリハビリでも多く活用していきます。是非、みなさん一度、織田病院の屋上庭園に足を運んでみて下さい!!

鬼村妃世



# ハワイ研修を 終えて

安部 伸和

Aloha! 私は昨年十月末より五泊七日で、ハワイ研修に参加してきました。

ハワイでは、アメリカの医療制度についてのセミナーに参加した後、日系人が設立したクアアキニ病院の視察に行きました。視察先は、救急患者を受け入れる体制が医師一人に対して看護師五人と充実し、

教育・研究も積極的に行われていました。また、退職後にボランティアとして活動している方がいることに驚かされました。

さて、いよいよ研修以外の話です。

宿泊先はハワイの名所! そう! ワイキキビーチが目の前に広がり、ダイアモンドヘッドが部屋から一望できる夜景の綺麗な高層ホテルでした。

食事は、理事長先生や洋子先生達とフラダンスやマジックショーを観ながら楽しく過ごしたり、ワイキキビーチの海

の音と実演奏を聴きながらお酒を飲んだり日々の忙しさを忘れて楽しく過ごすことができました。

また、宿泊先は中心地であり、ショッピングモールでの買い物、透き通った青い海でのスキューバダイビング、ダイアモンドヘッドのウォーキングなどを楽しむことができました。

今回の最大のイベントは年一回のハロウィンパレードです。街は、夜



になると仮装した人で溢れ、観光客で大賑わい! TVで観るのは大違いで実際に見る事ができて興奮しました。ハワイ研修へ行っていない諸君! 行かないと後悔しますよ! 行ってEnjoyしましょう! ☆Aloha☆



## 成人おめでとう!!

- ① 成人を迎えた感想は?
- ② 成人してやってみたいことは?
- ③ My ID card

★織田病院3階病棟

志田 涼二



① 無事に成人を迎える事ができ嬉しく思います。これからは、今まで以上に責任を持ち、行動していきたいです。

② 両親に親孝行していきたいです。

★グループホームゆうあい 介護職 山口 実香



① 無事に成人を迎える事ができて嬉しいです。何事にも責任を持つて頑張りたいです。

② いろんな人とお酒を飲みたいです。あと、新しいことに挑戦したいです。

③ どんな時も、笑顔を絶やさず頑張ります! こんな山口ですが、これからもよろしくお願ひします。

★織田病院3階病棟

中尾 愛



① 成人式を終え、大人の仲間入りをしたことを改めて実感し緊張している反面、これから先の期待と嬉しさを感じとても嬉しく思います。感謝の気持ちを忘れずになりたいと思います。

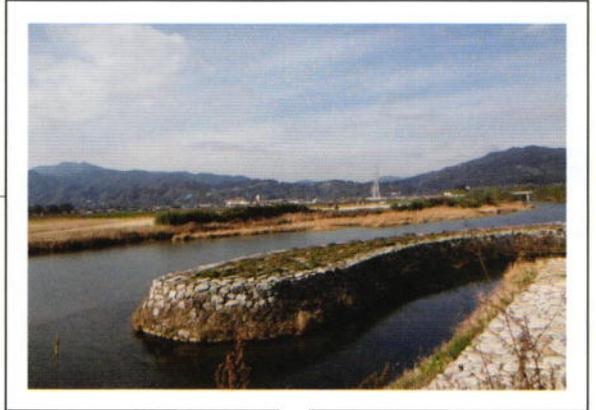
② 友達とたくさん飲みに行きたいです。また、いろんなことに挑戦してこれまで以上の自分に成長したいです。

③ 笑顔を忘れず、1日1日大切に何事にも一生懸命頑張ろうと思います。今後よろしくお願ひします。



# ふるさと探訪

## 『石井樋・多布施川河畔公園』



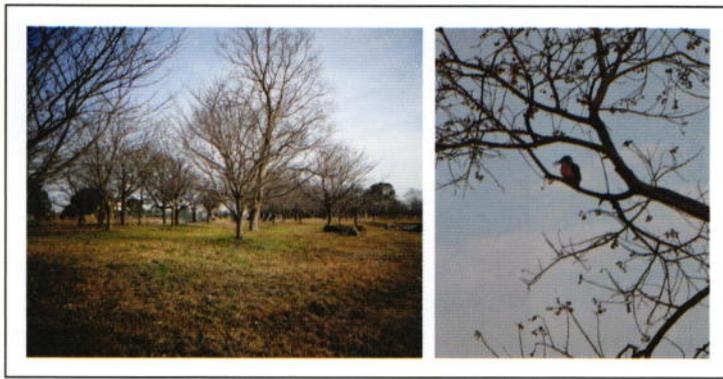
私の地元である佐賀市大和町に石井樋(いしいび)という取水施設があります。石井樋は江戸時代初期、成富兵庫茂安が嘉瀬川に築造した日本最古の取水施設です。当時、佐賀城内の飲料水と川上川の下流一帯の用水を確保し、洪水

の際に嘉瀬川、多布施川流域の一帯の被害を防ぐことを目的として構造されました。現在も上流から流れてきた水を石井樋で分流し、水量調節をしてくれています。

石井樋の近くには地元の中学校があります。各学年時の社会科研修やスケッチ大会、地域清掃等の野外活動で私も度々訪れており、大和町民にとって馴染みの深い場所でもあります。

現在石井樋・多布施川河畔公園は、私たちの憩いの場所となっています。公園内は石井樋で分流された川が流れており、澄んだ川辺では野生の水鳥が生息しています。今回はカワセミ、鴨、白鷺を発見しました。これから春になると満開の桜が咲き、夏には川辺で涼むことができますので皆さん

も訪れてみてはいかがでしょうか。  
医局秘書 中元寺 美咲



## ブックエント

『新着図書紹介』

●二木立著

『TPPと医療の産業化』

頸草書房 二〇一二年



本書は、医師の経験を踏まえ、医療経済・政策学の研究者の立場からの分析を、時評として継続的に発表し続ける二木立先生の新书で、日本のTPP参加による医療制度への影響、市場原理を導入した医療(営利)産業化政策論について、問題の本質に迫る分析・論証が展開されています。また、前政権時に議論された社会保障と税の一体改革案や、厚生労働省発表の「医療費等の将来見通し」、「医療改革シナリオ」を検証し、自身の見解を詳述されています。最後に元リハビリテーション科医の立場から、保健・医療・福祉複合体経営や介護予防事業についての実証研究、そして地域包括ケアシステムの今後の展望を解説されています。豊富な資料と内容で、大変参考になる一冊でした。

(リハビリ科 原田 将司)

【病院図書室】

●日野原重明監修、渡辺直著

『電子カルテ時代のPOS患者指向の連携医療を推進するために』

医学書院 二〇一二年

●石飛幸三著「平穏死という選択」

幻冬舎ルネッサンス 二〇一二年

●田上孝一著「フシギなくらい見え  
てくる一本当にわかる倫理学」

日本実業出版社 二〇一二年

## 編集後記

職員の皆様、明けましておめでとうございます。今年も寒い日が続いています。みなさん体調壊したりしていませんか? 二〇一二年の漢字は【金】でした。スカイツリー完成、ロンドン五輪での日本人選手の活躍、金環日食、ノーベル賞受賞：と輝かしい出来事の数々は、日本に「希望の光」をもたらしてくれました。当院では、屋上庭園が完成し、電子カルテが導入されました。また、公開セミナーが定着したり、新たにデイサービスが二ヶ所新設されたりと、前進し続けた一年だったのではないのでしょうか。

特に、電子カルテのクラウド化が実現したことにより、在宅医療の現場でもスムーズにiPad等の端末で患者様のカルテが使用でき、ベッドサイドでも画像等見ながら説明することができるようになったのは、素晴らしい技術だと思っています。今後、このシステムを最大限に活かす、保健・医療・介護の一元化、共有化をより一層強いものにしていくと思います。また、いよいよ五月には、病院機能評価の更新があります。【金】を取れるように、職員一丸となって頑張ります。

放射線部 堺 博美

# 学会(研究会)・講演(講義)・論文発表(平成24年)

## 【学会(研究会)発表】

### ◎医学関係

- 第91回佐賀胃腸学会(1月19日 佐賀大学医学部) 坂田泰志「咽頭異常感を主訴としたClinostomum complanatumの1例」
- 第92回佐賀胃腸学会(3月15日 佐賀大学医学部) 坂田泰志「上部消化管内視鏡検査で発見された陥凹型十二指腸腺腫の1例」
- 第1回佐賀県臨牀皮膚科医会(4月7日 ニューオータニ佐賀) 織田洋子、米倉直美「Mohsベースト療法を試みた原発性及び転移性皮膚悪性腫瘍の症例」
- 第48回九州内分分泌外科学会(5月18日 マリトピア) 伊山明宏、山地康太郎、篠崎由賀里、佐藤建「ナイロン糸ガイドによる乳輪下膿瘍根治手術」
- 第49回九州外科学会(5月18日 マリトピア) 佐藤建、山地康太郎、篠崎由賀里、伊山明宏「横行結腸癌術後播種に対しmFolFoxでCRが得られた1例」
- 第29回総合診療ケースカンファレンス(5月30日 マリトピア) 大串昭彦「自律神経失調症と診断されていた動悸を訴える20歳男性」
- 第99回日本消化器病学会九州支部例会、第93回日本消化器内視鏡学会九州支部例会(6月29日 佐賀市ホテルグランデはがくれ) 井手康史、犬塚貞孝、池上素樹、有尾啓介、松尾功、田中俊彦、土橋清隆、薬師寺浩之、太田春彦、光武良崇、中里栄介、古賀満明「肝がん予防対策における医療と行政の連携および協同」 井手康史、坂田泰志、松永圭司、篠崎由賀里、佐藤建、福田佳代子、岩切龍一「肝障害を生じた巨大なBrunner腺過形成の1例」 松永圭司、坂田泰志、内藤優香、大串昭彦、井手康史、西山雅則、福田佳代子、水口昌伸、坂田祐之、藤本一真「上部消化管内視鏡検査で発見された陥凹型十二指腸腺腫の1例」 大串昭彦、坂田泰志、松永圭司、内藤優香、井手康史、西山雅則、福田佳代子、井手口尚生、坂田祐之、藤本一真
- 第1回佐賀県臨牀皮膚科医会(4月7日 ニューオータニ佐賀)
- 第361回日本皮膚科学会福岡地方会(7月1日) 桑代麻希、井上卓也、織田洋子、三砂範幸、成澤寛「佐賀県では稀な日本紅斑熱の1例」
- 第2回佐賀県臨牀皮膚科医会(8月4日 ニューオータニ佐賀) 織田洋子「C型肝炎三剤併用療法における当院皮膚科の取り組み」
- 第298回日本内科学会九州地方会(8月25日 産科医科大学) 内藤優香、坂田泰志、大串昭彦、井手康史、松永圭司、中原快明、西山雅則、福田佳代子「胃幽門輪の閉塞を生じた無茎性胃過形成性ポリープの1例」
- 第35回佐賀救急医学会(9月1日 佐賀市文化会館) 廣津辰史、中島順子「モバイル情報端末(iPad)を使用した遠隔画像診断」 中元寺美咲、平川みき、田中優子、松永圭司、坂田泰志「抗血小板剤内服中に口内の血液貯留で発症した表在型食道癌の1例」
- 第3回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(9月1日 福岡国際会議場) 内藤優香、大串昭彦、西山雅則、朝長元輔、吉岡経明、京菜格、山下秀一「家族内発症した日本海裂頭条虫症の2例」
- 第103回日本耳鼻咽喉学会佐賀県地方部会学術講演会(12月 ホテルマリタール創世) 大橋充「当科で経験した外リンパ腫に一例」
- 第3回佐賀県臨牀皮膚科医会(12月8日 ニューオータニ佐賀) 織田洋子、桑代麻希「イミキモド(5%ベセルナクリーム)を用いた日光角化症の外科療法10症例の報告」
- ◎看護・介護・福祉・理学療法・ドック
- 第10回日本医療マネジメント学会佐賀支部学術大会(2月4日 肥前精神医療センター) 吉村彩香「点滴処置の先取り看護とナースコールの回数減少との関係」
- 第4回佐賀県介護支援専門員協議会研究大会(7月7日 伊万里市市民センター) 石井大輔「小規模多機能ホームのケアマネージャーとしてのご本人の気持ち大切に」
- 第35回佐賀救急医学会(9月1日 佐賀市文化会館) 経塚哲也、野中香織、江口富士子、西山雅則、織田正道「後期高齢者が多い地域のCPA蘇生の実態調査」
- 第54回全日本病院学会(9月21日、22日 パシフィコ横浜) 上滝公彦、重松おどり「転倒転落患者の各科別・年齢的特徴～転倒転落報告書を用いた分析～」 池田のぞみ、東島晴香、竹本愛、野中哲子、辻田幸子

- 「フィッシュ活動の取り組み～サンキューカード導入しての評価」 坂本祐香里、織田美穂子「外来化学療法における医事課介入の成果」 久本由香、小濱悦子、東島晴香、辻田幸子「麻薬使用中の脊椎空洞症患者の便秘に対する看護～自宅退院をめざして～」 山口多美子、土岐幸子、横田法子、宮崎真知子、矢川愛、土井弥生、西山雅則「当院の健康管理センターにおける未収金ゼロへの取り組み」
- 第23回全国介護保健施設大会美ら沖繩(10月3日～5日 沖繩コンベンションセンター) 石井大輔、光武耕治、安永勝子、西村美枝子、市丸徳美、諸岡義彦「今の教育、現場に合っていますか?～その1、求められる介護職員教育を目指して～」 光武耕治、石井大輔、安永勝子、西村美枝子、市丸徳美、諸岡義彦「今の教育、現場に合っていますか?～その2、自立型リーダー育成を目指して～」
- 第3回日本認知症グループホーム大会(10月5日～6日 リーガロイヤルホテル大阪) 橋岡祐也、松尾真央、北川英俊、市丸徳美、西村美枝子「入居者の気持ちを尊重する関わり～尊厳を守るケアをめざして～」
- 第14回日本医療マネジメント学会学術総会(10月13日 佐世保市体育文化館) 山口賢太、久本由香、山下のぞみ、上滝公彦、原崎真由美、伊山明宏「ベッド周囲での転倒転落予防策の標準化～第1報～」
- 佐賀県理学療法士会南部地区症例研究会・検討会(12月2日 武雄看護リハビリテーション学院) 原田将司「重症呼吸器障害患者の早期理学療法の効果」

## 【講演】

### ◎医学関係

- 平成24年度 働き盛りの肝がん予防普及啓発事業(1月23日 エイブル) 井手康史「働き盛りの肝がん予防出前講話」
- 平成24年度 働き盛りの肝がん予防普及啓発事業(2月1日 東亜二期KK) 井手康史「働き盛りの肝がん予防出前講話」
- 杵築地区肝疾患カンファレンス3剤併用療法への期待と課題(2月20日 武雄センチュリーホテル) 織田洋子「C型肝炎三剤併用療法のクリニカルパス～症例を通して～」
- 女性のつどい(3月11日 鹿島市エイブル) 佐藤建「最新の外科手術と検診による早期診断の重要性」
- 第9回佐賀県南部医療圏肝炎治療研究会(3月23日 和多屋別荘コトクラブ) 井手康史「C型肝炎に対する三剤併用の使用経験について」
- 「風のガーデン」講演会(5月23日 鹿島市民会館) 織田正道「地域住民参加型の地域包括ケアシステムの構築に向けて」
- 佐賀肝炎セミナー(6月13日 ホテルマリタール創世) 井手康史「C型肝炎に対する三剤併用の症例報告」
- 第101回医療経営研究会(7月6日 祐愛会織田病院) 織田正道「我々が目指す地域医療」
- 鹿島婦人科講演会(7月17日 鹿島商工会議所) 佐藤建「最近の外科手術と検診の重要性」
- 平成24年度 働き盛りの肝がん予防普及啓発事業(9月11日 埴野市民中央公民館) 安武努「働き盛りの肝がん予防出前講話」
- 平成24年度 働き盛りの肝がん予防普及啓発事業(10月12日 アメリカパン社内) 安武努「働き盛りの肝がん予防出前講話」
- ◎看護・介護・福祉・理学療法・栄養・ドック
- 光風荘職員研修会(1月11日 光風荘リハビリ室) 土井弥生「光風荘における健診結果と生活習慣病予防について」
- 第8回佐賀のホスピスを進める会鹿島大会(2月18日 エイブル) 小森ヒロ子「あなたののぞむラストシーン」病院から家に帰りたいという人のために」
- 平成24年度介護事業所等に係る集団指導について(6月8日 小城市生涯学習センター) 一ノ瀬英治「一歩先の機能訓練へのヒント」
- 認知症サポーター養成講座(6月15日 鹿島シルバー人材センター) 石井大輔「地域で支えよう」
- 牛津小学校 津の里ミュージアム

- 牛島久美子「包丁を上手に使う」(9月8日) 牛島久美子「朝ごはんをつくろう」(10月27日)
- 佐賀県介護福祉士会西部ブロック研修会(9月19日 橋公民館) 神代修「身近に感じる介護過程①アセスメント」
- 糖尿病市民公開講座(11月10日 エイブル) 辻由香里「食事療法のヒント」～できることから始めよう～ 矢川愛「健康寿命を伸ばそう」 松尾可奈子「糖尿病と運動」～効果的な運動とは～
- リハビリテーション介護研修会(10月14日 西九州大学) 一ノ瀬英治「福祉用具の選び方」
- 佐賀県看護協会西部地区支部研修会(11月14日 杵築地区医師会) 市丸徳美「認知症高齢者のケア」
- 鹿島ロータリークラブ例会卓話(11月20日 鹿島商工会議所) 牛島久美子「塩について～おいしく減塩する方法～」
- 佐賀県介護福祉士会西部ブロック研修会(11月21日 橋公民館) 神代修「身近に感じる介護過程②プランニングから評価まで」
- 佐賀県看護協会精神看護研修会(11月27日 佐賀県看護協会看護センター) 市丸徳美「明日から役立つ認知症患者の看護」
- 佐賀県社会福祉士会キャリアアップ支援基礎研修(12月12日 佐賀県社会福祉会館) 神代修「ケアプランとサービス計画」

## 【講義】

### ◎医学関係

- 鹿島藤津地区医師会看護高等専修学校講義(3月14・16日) 織田洋子「人体のしくみと働き(感覚系・皮膚科)～疾病の成り立ち」
- 佐賀大学医学部医学科3年生(4月23日) 西山雅則「地域高齢者医療～介護と在宅医療」
- 佐賀県立総合看護学院(5月29日) 西山雅則「地域医療と高齢者保健指導」
- ◎看護・介護・リハ・福祉
- 鹿島藤津地区医師会看護高等専修学校講義(2月27日、3月5・12日) 江口利信「保健・医療・福祉のしくみ」
- 埴野医療センター付属看護学校講義(6月24日、7月4日、9月5・12・19・25日、10月13日) 小森ヒロ子「在宅看護論」 市丸徳美「高齢者を取り巻く保健医療福祉制度の現状」(2月8日・16日、11月1・8日)

## 【論文・著書】

- 坂田泰志、角田光子、中元時美咲、松延亜紀、吉岡経明：内視鏡下クリッピング法で止血した十二指腸憩室出血の1例。内科、109(1)、159-161、2012。
- 坂田泰志、石松隆造、朝長元輔、岩切龍一、米満伸久：直腸に隆起を認めたサイトメガロウイルス腸炎の1例。内科、109(2)、341-344、2012。
- 大串昭彦、坂田泰志、内藤優香、朝長元輔、松永圭司、岩切龍一、水口昌伸、藤本一真、米満伸久：人間ドックの上部消化管内視鏡検査で発見された早期十二指腸癌の1例。日本消化器がん検診学会雑誌、50(2)、186-190、2012。
- 坂田泰志、水口昌伸、松永圭司、内藤優香、大串昭彦、岩切龍一、坂田祐之、藤本一真、米満伸、朝長元輔：上部消化管内視鏡検査で発見された陥凹型十二指腸腺腫の1例。日本消化器がん検診学会雑誌、50(4)、446-450、2012。
- 内藤優香、坂田泰志、大串昭彦、朝長元輔、山下秀一：腸管病変で発症した高齢女性のHenoch-Schonlein紫斑病の1例。内科、110(1)、133-136、2012。
- 坂田泰志、岩切龍一、中野良、川副広明、米満伸：抗血小板薬内服中に消化管出血で発症したBarrett食道癌の1例。内科、110(1)、137-139、2012。
- 坂田泰志、片岡和子、高岩一貴、山本衣里子、藤本一真：咽頭異常感を主訴としたClinostomum complanatum寄生虫の1例。内科、110(3)、511-513、2012。
- 坂田泰志、水口昌伸、永田和子、川崎綾、崎崎春香：肝障害を生じた巨大なBrunner腺過形成の1例。内科、110(5)、841-844、2012。
- 坂本祐香里：外来化学療法における医事課介入の成果。医事業務、420、10-15、2012。